

ごあいさつ

このたび、千葉大学は 2022 年度「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。これにより、グローバル地域ケア IPE プラス（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program GRIP）が 2022 年 10 月にスタートいたしました。この目的は、SDGs の開発目標 3「すべての人に健康と福祉を」を実現し、WHO が提唱する Universal Health Coverage「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」の推進のために、地域ケアを創生する人材を育成することです。

この事業に応募するに至った背景を説明しておきたいと思います。

まず、千葉大学亥鼻キャンパスでは 2007 年より、亥鼻 IPE（<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/inohana-ipe/aboutinohanaipe/index.html>）という、医学部・看護学部・薬学部・工学部による専門職連携教育を必修科目としてスタートさせていました。これにより、多様な学問領域の学生が共通の目的・目標に向かって共に学びお互いから学びお互いについて学ぶための学習内容、方法、資源の集約ができていました。加えて、2015 年 1 月に千葉大学看護学研究院に附属専門職連携教育研究センター（Interprofessional Education Research Center IPERC）が開設されました。これにより世界の専門職連携教育拠点や担当者との交流プラットフォームとして IPERC が機能することとなり、イギリス、オーストラリア、ドイツ、インドネシア、中国、台湾、カナダなどの IPE プログラムとの交換留学プログラム（Global IPE プログラム）の開発がスタートしていました。

また千葉大学では全員留学 ENGINE プログラムが 2020 年よりスタートし、この準備のために、看護学部では Global Health and Nursing II という短期留学科目を開講しこの科目の中で、インドとの交換留学プログラムをスタートさせていました。また COIL プログラムもこの科目の中で展開しておりました。おりしも世界的に COVID-19 のパンデミックのため、オンライン留学プログラム、オンライン IPE プログラムを開発し、実装を完了させていました。

以上の基盤整備と、IPE および留学プログラムが開発されていたことにより、これらを統合した GRIP プログラムの原型ができていたといえます。

そして 2022 年 10 月から事業がスタートしたわけですが、初年度事業として学習環境の整備、プログラムのカウンターパートであるイギリスレスター大学、オーストラリアモナッシュ大学、インドのシンビオシス国際大学とのプログラム開発ミーティング、フィールド調査を行いました。そしてシンビオシス国際大学のサービスラーニングセンター SCOPE を拠点とした千葉大学 10 名の派遣、同大学からの 10 名の学生の受け入れのトライアルを実施することができました。

本事業初年度トライアルを実施できたのは、シンビオシス国際大学の千葉大学生の受け入れ整備に尽力してくださった、国際教育部門 SCIE（Symbiosis Centre for International

Education)、SCOPE (Symbiosis Community Outreach Programme and Extension)部門、看護学部 SCON (Symbiosis College of Nursing)、のみなさまと、日本での受け入れを快く引き受けてくださった施設、自治会、千葉大学の各部門の方々の多大な貢献のたまものであり深く感謝申し上げます。また学生のアテンドとして間に入ってくださった SGS、JTB の皆様にも深く感謝申し上げます。本当に多くの方々のご協力により、GRIP 初年度事業はほぼ目標を達成したと考えております。

2年目の事業実施に向けた課題として、以下の点が考えられます。まずプログラムの学習効果をさらに高めるために、学習目標に見合った内容であるかという視点からさらにブラッシュアップすること、ブリーフィングおよびデブリーフィングの時間を十分にとることが重要です。またカウンターパート国の文化的背景をさらに理解したうえで社会課題のアセスメントと解決策の検討ができるように、文化的感受性の涵養および文化的謙虚さを高められるようにプログラムを改善すること、そして継続可能性を高めるように、効率的な事業運営を工夫すること、事業の経過を記録すること、これらを統合して、教材ケーススタディの開発と蓄積を行っていくことなどです。

またプログラムの改善のために定期的な内部外部評価を受けながら進めていくことは前述した課題解決のための基盤となります。

これからも GRIP の発展のためにご指導をよろしくお願いいたします。

千葉大学看護学研究科 教授
GRIP プログラム責任者
酒井 郁子